



Iwate こども・家族ケア研修会



責任者：原瑞恵 共同者：相墨生恵, 齋藤沙織, 高橋佑里香, 福士友

令和6年度岩手県立大学看護実践研究センター事業

活動の概要

少子高齢化により小児と成人の混合病棟への移行が進んでおり、小児特有の看護経験の不足や小児看護実践に特化した教育プログラムが少ないことで、看護師が小児看護の特殊性に困惑していることが予測される。このことから、本研修会は、小児看護に携わる小児経験の浅い看護師を対象にし、子どもの最善を目指した看護ケアの実践と小児看護の質の維持・向上を目的とし開催した。

研修内容

テーマ：子どもの呼吸状態の悪化の認知と対応

事例：気管支喘息の既往がある肺炎で入院となった子ども

- 方法：1. 講義・グループディスカッション
2. ロールプレイ（シミュレーション人形を活用）
3. 振り返り・まとめ

活動成果

本研修会には10名の看護師が参加した。ロールプレイでは、緊張している様子もあったが、どの参加者も日々の看護実践を振り返りながら演じている様子が伺えた。アンケートでは、全ての参加者が本研修会が小児実践に実践に活かせると回答し、普段のケアを振り返り、新たな気づきを得ることができたり、多施設の看護師に会える機会に価値を感じている参加者もいた。次年度以降も研修会を継続していくことで、小児看護の質の維持向上に貢献していけるよう努めていきたい。

